

# INSPIRE

子どもに対する暴力撤廃のための7つの戦略

概要



オリジナル版発行:World Health Organization  
発行年:2016年  
タイトル:“INSPIRE: Seven Strategies for Ending Violence Against Children – Executive Summary”  
[https://www.who.int/violence\\_injury\\_prevention/violence/inspire/en/](https://www.who.int/violence_injury_prevention/violence/inspire/en/)  
© World Health Organization 2016

世界保健機関は、ワールド・ビジョン・ジャパンに日本語版の翻訳と出版の許可を与えた。ワールド・ビジョン・ジャパンは、日本語翻訳の質と忠実性に全責任を負う。英語版と日本語版の間に齟齬がある場合は、オリジナルの英語版を拘束力のある正本とする。

日本語版タイトル:「INSPIRE 子どもに対する暴力撤廃のための7つの戦略 概要」  
発行年:2019年

日本語版制作:  
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F  
Tel:03-5334-5350 Fax: 03-5334-5359  
<https://www.worldvision.jp/>

日本語版発行:  
外務省国際協力局民間援助連携室  
「平成30年度外務省NGO研究会(SDGs16.2子どもに対する暴力撤廃とNGO)」

協力:  
特定非営利活動法人 ACE、特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン、特定非営利活動法人 国際子ども権利センター、特定非営利活動法人 ヒューマンライツ・ナウ、国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ、特定非営利活動法人 プラン・インターナショナル・ジャパン、公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、公益財団法人 日本ユニセフ協会

# INSPIRE

## 子どもに対する暴力撤廃のための7つの戦略

### 概要

最近の調査によると、過去1年で10億人にも上る子どもたちが、身体的、性的、または心理的な暴力を受けたことがあるということが明らかにされた。INSPIREは、子どもや若者に対する暴力の防止や対応に尽力する、政府機関から草の根レベル、市民社会から民間企業のすべての人のために、技術をまとめたものである。INSPIREは、入手可能な最良の事例から抽出され、大きな可能性を有する、子どもに対する暴力を減らすための戦略をまとめたものである。

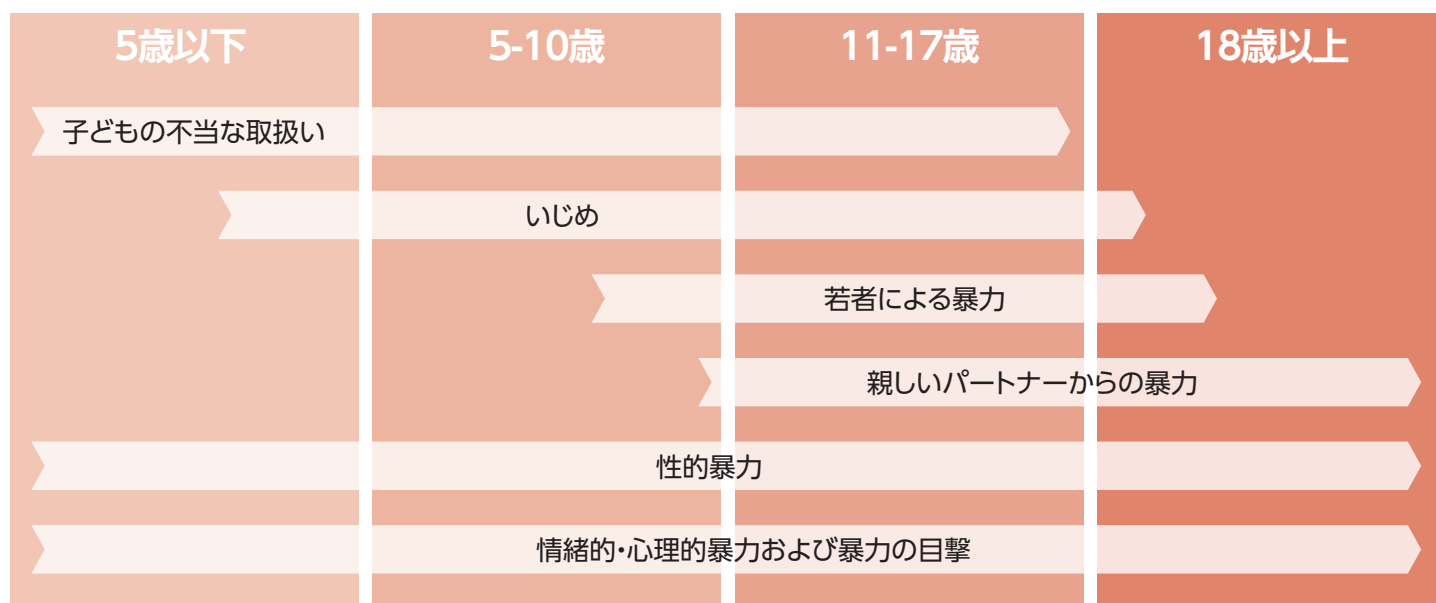
長期にわたり、子どもに対する暴力を防止するための、一貫した実証に基づくアプローチを展開してきた10の機関が、協働でINSPIREを開発した。これらの機関は、国家やコミュニティに対し、本冊子にある戦略の実施を通じて、子どもに対する暴力の防止と対応をさらに強化するよう団結して強く要請する。

# 子どもに対する暴力を終わらせることこそ優先課題

子どもや若者に対する暴力は、身体的、性的、情緒的虐待や、放任(ネグレクト)を含む。乳幼児への暴力は、主に親や養育者、その他の力を持った者の手による不当な取扱いという形態を取るものが大半である。子どもが成長すると、仲間や親しいパートナーによる暴力—いじめ、喧嘩、性的暴力、暴行、しばしば銃やナイフなどの武器を使用したもの—がより一般的になる。

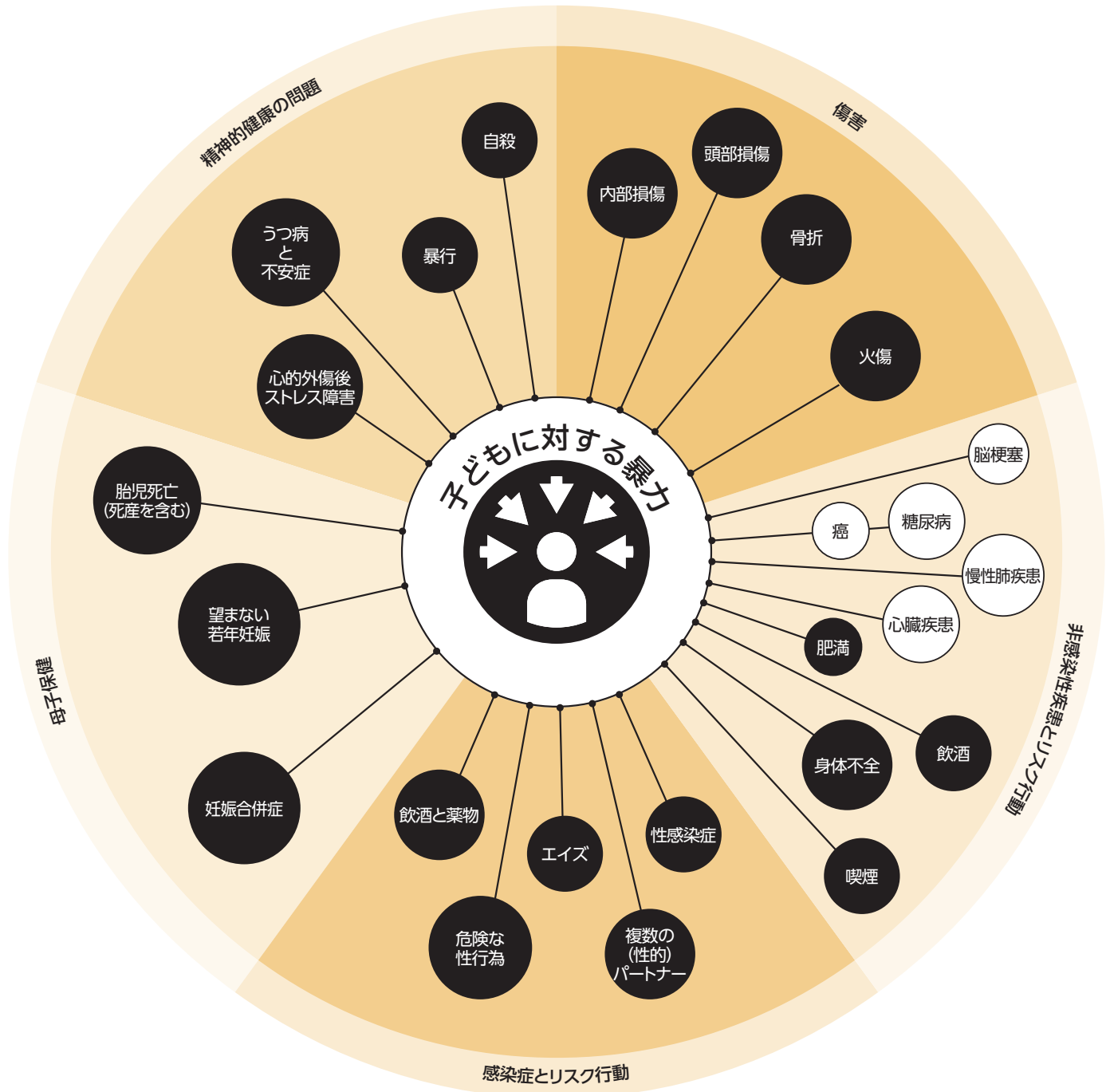
子ども時代には、4人に1人の子どもが身体的虐待を受け、およそ5人に1人の女の子と13人に1人の男の子が性的虐待を受けている。殺人は、若者の死因の上位5位以内に入っている。このように広く暴力が行われている状況にもかかわらず、暴力はしばしば隠され、見えにくく、過少に報告されている。

## 子どもに対する暴力は年齢によって異なる形態を取る



子どもに対する暴力は、子どもたちの健やかな成長を阻害し、大人になっても続く深刻で消えることのない影響を与える。幼少期に暴力に晒されると脳の成長が損なわれ、一生にわたって、身体的・精神的健康に影響を受ける可能性がある。直近の、そして長期にわたる公衆衛生への影響と経済的費用は、子どもの教育、保健、福祉への投資を台無しにしている。子どもへの暴力はまた、将来世代の生産能力を損なうものでもある。

# 子どもに対する暴力による潜在的な健康への影響



● 直接的な影響

○ 高いリスク行動を取ることによる間接的影響

暴力とその甚大な影響の多くは、根本的な原因とリスク要因に対処するプログラムを通じて防止が可能である。

暴力は、個人の交流、恋愛関係、コミュニティ、社会的要因から生まれる。これら4つのレベルは、INSPIRE戦略にとって重要なエントリーポイントを表している。ジェンダーに関する規範は、子どもや若者を暴力に対して脆弱にする社会的要因である。つまり、女の子と女性の社会における低い地位をさらに固定化し、男の子や男性が暴力を働く可能性を増大させている。

# INSPIRE: ビジョン

INSPIREの目指す世界(ビジョン)は、すべての政府が、市民社会とコミュニティの積極的な参加を得て、全ての子どもや若者に対する暴力を防止し、また暴力に対応するために、日々介入とその監視を行い、子どもと若者が自身の可能性を最大限に発揮できる世界である。

INSPIREは、子どもの権利条約(CRC)で保障された守られる権利、つまり、子どもが父母、法定保護者又は子どもを監護する他の者による監護を受けている間において、国家は、あらゆる形態の暴力からその子どもを保護するため、すべての適当な立法上、行政上、社会上及び教育上の措置をとるという権利を強化するものである。子どもに対する暴力が公衆衛生と社会にもたらしている甚大な負担に対応しなければならない差し迫ったニーズを反映している。

INSPIREは、以下の持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指す国やコミュニティを支援することを意図している。

SDGターゲット16.2:“子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問をなくす。”

SDGターゲット5.2:“人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。”

SDGターゲット16.1:“あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。”

# INSPIRE: 構成

INSPIREは、子どもに対する暴力を終わらせるための枠組みとなる7つの戦略をまとめたものである。一つひとつの戦略が、目標、理由付け、可能性が見込まれる効果、戦略を実施するための具体的なアプローチ、そして、有効性の証拠とともに紹介されている。加えて、INSPIREは、この7つの戦略を結びつけ、強化し、進捗を評価することを助ける、2つの分野横断的な取り組みをも含んでいる。

# 0-18歳の子どもに対する暴力を防止し、暴力に対応するためのINSPIRE戦略の概要

戦略	アプローチ	分野	分野横断的な活動
 <p>法の施行と執行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親や教師、その他養育者による子どもへの体罰を禁止する法律</li> <li>子どもへの性的虐待や搾取を犯罪とみなす法律</li> <li>アルコール(酒類)の悪用を予防する法律</li> <li>銃器や他の武器への若者のアクセスを制限する法律</li> </ul>	<p>司法</p>	
 <p>規範と価値</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>偏狭で有害なジェンダーに対する規範や社会規範に対する執着からの変容</li> <li>コミュニティ参加型プログラム</li> <li>身近な第三者による介入</li> </ul>	<p>保健、 教育、 社会福祉</p>	<p>多分野に渡る活動と連携</p>
 <p>安全な環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ホットスポット」(暴力が頻発する場所)に取り組むことによる暴力の削減</li> <li>暴力の拡大阻止</li> <li>既存環境の改善</li> </ul>	<p>内務、 計画</p>	
 <p>保護者や養育者への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問</li> <li>コミュニティ内にあるグループへの支援</li> <li>包括的プログラムを通じた支援</li> </ul>	<p>社会福祉、 保健</p>	
 <p>収入・経済力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現金支給</li> <li>ジェンダー研修と組み合わせた貯蓄と融資のグループ活動</li> <li>ジェンダー規範に関する研修と組み合わせたマイクロファイナンス</li> </ul>	<p>財務、労働</p>	
 <p>対応・支援サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングおよびセラピー</li> <li>対応と組み合わせた精査</li> <li>刑法制度における少年犯罪者更生プログラム</li> <li>社会福祉サービスを巻き込んだ里親制度による介入</li> </ul>	<p>保健、 司法、 社会福祉</p>	<p>モニタリングと評価</p>
 <p>教育とライフスキル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前教育と中・高等学校への就学増加</li> <li>安全な学校環境の確立</li> <li>性的虐待とそれから身を守る方法に関する知識の向上</li> <li>ライフスキルとソーシャルスキル研修</li> <li>青年期の親密なパートナー間での暴力を防止するプログラム</li> </ul>	<p>教育</p>	

# 1. 法の施行と執行



この戦略の目的は、暴力行為を防ぎ、過度な飲酒を減らし、銃や他の武器への若者のアクセスを制限する法律の施行と執行を確かなものにするることである。子どもへの性的虐待や体罰などの暴力的行為を禁ずる法律は、社会がこうした行いを容認しないということを示している。これらの法律は、犯罪の加害者たちに自身の行為に対する法的および社会的責任を負わせる方法となる。法律や政策はまた、子どもに対する暴力において鍵となる危険要因を減らし得るものでもある。

期待される成果:

- 親、保護者、権威者による子どもへの身体的暴力の減少
- 強制的な性行為、望まれない性行為の試みや性的接触を含む、子どもに対する性的虐待の減少
- 人身取引、ポルノ、買春を含む子どもに対する性的搾取の減少
- 過剰なアルコール(酒類)摂取、大酒の減少
- 銃器が関連する死亡と死には至らない傷害の減少
- ポジティブなジェンダー規範と社会規範の増加

# 2. 規範と価値



社会的、文化的な規範は、暴力が助長されたり日常化されたりする環境を生み出すことがある。この戦略の目的は、すべての子どもと若者のために、非暴力で、互いを尊重し、成長し合い、ポジティブで男女平等な関係を築くことを支援する規範と価値を強化することである。これを実現するためには、社会的、文化的に根深く浸透している規範と行動様式、一特に、ある形の暴力は常識だけでなく、時として正当化されるという考えを改めることが、しばしば必要である。ジェンダーと社会について男子が有する有害な規範に挑むようなコミュニティ参加型プログラムや、身近な第三者による介入、少人数グループによるプログラムなどのアプローチを含む。

期待される成果:

- 女性や子どもに対する暴力受容の減少
- 少女たちの早期・強制結婚の減少
- 男女平等や男女間の役割分担に関するより望ましいマインドセット
- 親のしつけに関し、非暴力的な方法を強める姿勢
- 親密なパートナーや子どもに対する虐待行為を引き起こす要因が広く知られること
- 親密なパートナーや子どもに対する暴力を防ぐため、身近な第三者による介入が増加すること
- 親密なパートナーや養育者による身体的・性的暴力の減少



## 3. 安全な環境



この戦略は、子どもや若者が集まって時を過ごす安全な街や環境を創り、維持することを目的としている。ポジティブな行動を促し、害となる行動を防ぐために、(その中にいる個人というよりはむしろ)コミュニティの社会的、物理的環境を変えることに注力する。暴力の危険が高い“ホットスポット”における直接的な「問題志向型警察活動」や、報復行為の抑止による暴力的争いの中断、既存の環境の改善などのアプローチを含む。

期待される成果:

- 暴行による傷害の減少
- コミュニティ周辺を移動する際の安全性の向上

## 4. 保護者や養育者への支援



この戦略は、親と養育者が肯定的な、暴力を伴わないしつけと、親密で効果的なコミュニケーションの重要性を理解するよう支援することを通じて、厳しい養育習慣を減らし、ポジティブな親子関係を築くことを目的としている。親と養育者への支援は、家庭訪問やグループによる活動を通じた保護者トレーニングプログラムにより届けられる。これらのアプローチにより、保護者は子どもの成長について学び、暴力を伴わないしつけや、デリケートな話題を親子で効果的にコミュニケーションする方法といったポジティブな育児習慣を身に付けられるよう、トレーニングを受ける。

期待される成果:

- 子ども虐待だと認定された事例や子ども保護サービスによる保護の事例の減少
- 暴力的でかつ否定的な厳しい子育ての減少
- いじめの減少
- パートナーや仲間による身体的・情緒的・性的暴力の犠牲者の減少
- 思春期における暴力行為や非行の減少
- 前向きな親子コミュニケーションの増加
- 子どもや若者の安全のための保護者によるモニタリング活動増加

## 5. 収入と経済力の向上



この戦略は、家族の経済的安定性を改善することにより、パートナーからの暴力や子どもの不当な取り扱いを減らすことを目的としている。これには、保護者トレーニングおよび、子どもが学校に通うという条件と組み合わせた家族への現金給付、男性・女性を対象としたジェンダー規範、家庭内暴力、性に関する教育と組み合わせたマイクロファイナンスの提供などの活動を含む。

期待される成果:

- 親や他の養育者による子どもへの身体的暴力の減少
- 親密なパートナーによる暴力の減少
- 少女の早期・強制結婚の減少
- 家庭内で、パートナー間の暴力を目撃する子どもの減少
- 親密なパートナーによる暴力を容認しない社会規範と態度の増加

## 6. 対応・支援サービス



この戦略は、子どもに対する暴力の長期的な影響を減らすため、必要とするすべての子どもの質の高い保健、社会福祉、刑事司法支援サービスへのアクセス—暴力を報告するためにも—の改善を目的としている。

暴力を経験した子どもたちは、そのことで受けたダメージを緩和するため様々な保健・支援サービスを必要としている。さらに、これらのサービスは子どもたちの人生に存在する暴力の負の連鎖を断ち切るのを手助けし、彼らが事態により良く対応し回復することを助ける。暴力による傷害のための緊急医療ケアや、性的暴力の被害者のための臨床ケア(例えば、レイプの場合に抗HIV薬の使用など)のような基本的な保健サービスが主な優先事項である。これらの基本的なサービスが子ども中心の視点で整備されると、関連するサービスは、子どもたちが他の面で必要とするサポートとケアを求め、暴力を報告し、更なるサービス紹介を受けるなどの手助けをすることができる。そうしたサービスとは、例えばカウンセリングやセラピーを受けること、刑法制度による年少犯罪者のための更生プログラム、社会福祉サービスを巻き込んだ里親制度による介入などを含む。

期待される成果:

- 短期間での類似した暴力事例の再発減少
- トラウマ的症候(たとえばPTSD(心的外傷後ストレス障害)、うつ病、不安症)の減少
- 性的感染症や、性と生殖に関する健康上、望ましくない結果の減少
- 暴力行為と犠牲の短期的、そして後の人生における影響の軽減

## 7. 教育とライフスキル



この戦略は、より効果的なジェンダーによる差別のない教育、ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL: 自尊感情、対人関係能力の育成を目的とした教育アプローチ)、ライフスキルトレーニングへの子どものアクセスを増やし、安全な学校環境を確保することを目的としている。男女両者を対象とした教育の利点は、暴力行為と、その犠牲の両方を防げることにある。この戦略には、就学前教育と中・高等学校への就学増加、安全かつ就学を可能にする学校環境の確立、性的虐待とそれから身を守る方法に関する知識の向上、青年期の親密なパートナー間での暴力を防止するプログラム、ライフスキルとソーシャルスキル研修などのアプローチが含まれる。子どものソーシャル・エモーショナル・ラーニングを強化するプログラムでは、コミュニケーションや対人関係構築のスキルを高め、彼らが問題を解決したり、感情をコントロールしたり、共感したり、争いを安全に解決すること—つまり、暴力を防止することができるライフスキル—を学ぶことを支援する。

期待される成果:

- 学校の出席率向上、学業での成功
- 攻撃的で暴力的な行為の減少
- いじめ行為の減少
- パートナーによる身体的・性的な暴力行為と被害の減少
- パートナーによる暴力に対する意識と態度の改善
- 薬物使用や過度な飲酒の減少

### 分野横断的な活動 1: マルチセクターによる 行動と連携

INSPIREの根拠に基づく防止プログラムやサービス提供の成功は、複数分野にまたがるセクターとステークホルダー—公的、民間、そして市民社会における—の国と地域レベルでの協力にかかっている。これらは、教育、保健、司法、財政、社会福祉に関連した省庁と、専門団体、信仰に基づいた組織、教育機関、財団、その他 NGOなどの市民社会組織を含んでいる。

### 分野横断的な活動 2: モニタリングと評価

モニタリングシステムは、子どもに対する暴力の深刻度やその状況についてのデータを提供し、計画された活動の実施を追跡し、そのインパクトを測定し、理論と実践のギャップを示す役割を果たす。これらの目的のために、子どもに対する暴力に関する全国レベルの人口に基づいた調査と、施設ベースの管理システム(病院・警察の記録や社会サービスなど)が必須である。評価は、政策決定者や公衆衛生の担当者に、子どもに対する暴力を防ぎ、対応するために立案されたプログラムや政策が、意図されたインパクトを生み出しているかについて重要な情報を提供する。



Credit: Kibae Park/Sipa - World Bank



Credit: WHO /Christopher Black



Credit: WHO/Chapal Khasnabis



Credit: WHO /Christopher Black



Credit: WHO/TDR /Julio Takayama



Credit: WHO /Christopher Black



Credit: WHO/TDR /Julio Takayama

# 結論

---

子どもに対する暴力撤廃のためのこれらの戦略は、保健、社会福祉、教育、財政、司法分野を横断するものである。各国の戦略は、強力で、確実な先進国での成功事例と共に実証されている。低・中所得国でも同様に機能することを示す事例が集まりつつある。これらの戦略は、互いを強化し合い、組み合わせることで最善の効果を発揮することが意図されている。モニタリングと評価は、本冊子に掲載されている戦略の実施から得られる教訓を活かして改善するために、鍵となる役割を担っていく。また、戦略を採用し、実施する国々が、各国それぞれの文脈や社会構造に合わせて実践できるよう、各戦略の実践ガイドが準備されつつある。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、子どもへの暴力をなくすための大胆で野心的かつ明確な要求を含んでいる。このアジェンダは、すべての子どもたちにとって安全、安定的で成長できる関係と環境を築く行動を引き出す、ユニークな機会を提供するものである。私たちは皆、行動を起こす力と、責任を持っている。INSPIREを構成する7つの戦略と分野横断的な活動は、子どもに対する暴力撤廃を加速させる最善の方法である。だからこそ、機能させることが求められている。

国の存立の本質は、いかに子どもの成長を支えるのか、ということである。子どもが傷つく時、私たちは、社会として、衰退する。子どもへの暴力を終わらせるため、私たちは協働し、最善を尽くす。そして、子どもがその可能性を最大限に発揮することを助け、次の世代のために、平和と尊厳が保障された未来を目指すのである。



この日本語版冊子はここにある団体で協力して作りました



